

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回スポーツ推進審議会
事務局	生涯学習部生涯学習課
開催日時	令和4年7月26日(水) 18時から19時30分まで
開催場所	801会議室
出席者	会長 田中 幸夫 委員 副会長 本橋 玲子 委員 委員 中川 稔 委員 檀原 延和 委員 野川 春夫 委員 長谷川 貴広 委員 木藤 早紀 委員
欠席者	委員 服部 啓次郎 委員 樋田 和博 委員 佐藤 里咲 委員
事務局	生涯学習部長 梅原 啓太郎 スポーツ振興担当課長 中島 憲彦 スポーツ振興係主査 岡本 康夫 スポーツ振興係主任 津田 理恵 スポーツ振興係主事 西村 謙太郎 ランドブレイン株式会社
傍聴の可否	可 一部不可 不可
傍聴者数	2
傍聴不可等の理由等	-
会議次第	1 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュールについて 2 第2次スポーツ推進計画の策定について 3 その他
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり
提出資料	別紙のとおり

を審議することがメインとなるため、パブリックコメントで御意見が出ていない箇所については、この段階では修正が難しくなります。つまり、基本的には10月で計画案をほぼ確定とすることを念頭に入れておいていただくようお願いいたします。

最後、3月に会長から教育長に答申をいただく予定です。

また、今後感染症の状況を見ながら、オンラインでの開催を検討してまいります。オンラインでの参加に御対応いただけますでしょうか。

(一同頷く)

ありがとうございます。

スケジュールについての御説明は以上となります。

田中会長

スケジュール案について、何か御質問や御意見等ありましたら、お名前を言って発言をお願いします。よろしいでしょうか。

では、現在のところ、このスケジュールで進めてまいりたいと思います。よろしくをお願いいたします。

続きまして、(2)第2次スポーツ推進計画の策定についてということで、事務局のほうから説明をお願いいたします。

津田主任

市民アンケートについて、前々回と前回の審議に加え、メールでも御協力いただきました。アンケート内容への御意見とともに、周知にも御協力いただきましてありがとうございました。本日はアンケート結果の御報告の後、第2次計画策定に向けた課題、改定の視点について審議いただきたいと思います。配付いたしました資料6(小金井市スポーツ推進計画改定の視点(案)について)がそれに当たります。先ほどスケジュールの中でもお伝えしましたが、新計画の第2章に当たります。

アンケート結果を見ると、個別の施策や取組内容を取り上げたいと思いますが、個別の施策については今後の目標達成に向けた施策を審議する回に預け、本日は総合的な視点での課題、改定の視点に時間を割いていただけるようお願いいたします。

現在感染症が蔓延していることから、本日は短時間での審議をお願いしたいと思っております。個別の施策等についての質問は、後日、メール等でいただければと思っております。本日メインとなる、改定の視点について、過不足のある部分を皆様で議論していた

だくよう進めていただきたいと思います。

では、御説明をランドブレインさんからお願いしたいと思います。

ランドブレイン株式会社 資料2から資料6までを説明させていただきます。まず、資料2のアンケート調査の結果報告をした上で、資料3から5は付属版となりますので、省略させていただいた上で、資料6の説明に進めていきたいと思ひます。

資料2の御説明に入りますが、お配りしている資料2は結果が載っているものだけになっているかと思うんですけども、簡単にそれを見た整理という資料（結果整理）もつけておりますので、その2つを合わせて聞いていただければと思ひます。

それでは御説明してまいります。まず、資料2の5ページを開いていただければと思ひんですけども、こちらのアンケートとしては、回答者の特徴を整理しているところが最初にあります、問6、健康状態というところにつきましては、年齢別に結果を整理している部分でございますけれども、80歳以上を除き、おおむね回答者の健康に対する認識は高いところを見て取ることができます。

隣、6ページの体力への自信、問7につきましては、自信があると思ひている方は、世代にかかわらず4割程度と見ることができます。

7ページの間8、運動不足への認識というところにつきましては、年齢別に見ますと、30代から50代で運動不足を感じている傾向が強いというところを見て取ることができます。

続きまして8ページ、こちらが、この1年間に回答者が実施した運動・スポーツの状況を整理したものでございまして、割合の高いものから、ウォーキング、ランニング、ジョギング、74.9%、次いで体操が40%ということで、この2つが突出しているという結果になっております。そのほか、順に割合の高い運動・スポーツとしては、サイクリングなどのサイクル系、登山、キャンプなどのアウトドア系の運動・スポーツ、室内運動器具を使ってするスポーツやラケットスポーツ、水泳、ゴルフといったあたりが主要なものとして並んでいます。

続きまして、11ページを御覧ください。問10の運動・スポーツの実施場所を聞いたところでございまして、主な運動・スポーツの実施場所といたしましては、道路、公園、自宅または自宅敷地内、

民間インドア施設、公共スポーツ施設、これらの順で全体の8割を構成している結果となっております。

続きまして、13ページを御覧ください。問11、実施形式の問いでもございまして、こちらは個人で実施しているという回答が全体の半数を占めております。これに会員制の民間スポーツクラブ、さらに家族と実施というものを加えて全体の7割を構成しております。

次は16ページを御覧ください。こちらはスポーツの実施日数を聞いている問いでもございまして、週に1日以上運動している方が、合計すると回答者の63.2%を構成しております。こちらの週1日以上運動・スポーツというところは、現在のスポーツ推進計画の目標値とも関連してくる結果となっております。

その下に年代別の回答結果を整理しておりますが、30代及び40代というところでは、その週に1日以上運動できている割合は5割前後と少し低くなっている状況です。

17ページをお願いします。こちらは問13、現在の実施頻度への満足度を聞いた問いでもございますが、回答者の半数は不満を感じているという状況、さらにその下、年齢別に見たところ、特に20代から50代で不満の割合が高いという結果となっております。

少し設問を飛ばします。20ページを御覧ください。これは問16、現在の継続状況、今後の意向について聞いた設問でございます。こちらは、回答者の半数が1年以上継続的に運動・スポーツを実施しているという、かなり前向きな回答をいただいている状況です。

21ページをお願いします。次は問17、回答者が運動・スポーツをする際の理由・動機づけとなるものを聞いた設問でもございまして、全体の結果としましては、健康・体力づくり・ダイエット・運動不足解消、それとストレス解消・気分転換というところは、ほぼ全ての対象者で動機・理由づけになる。次いで、友人・仲間との交流、交友関係の拡大が7割、自己の記録や能力の向上で半数などの結果が出ております。

隣、22ページは、逆に今度は運動を実施していない方を対象に、今運動しなかったり、できなかったりする理由を聞いたところでもございます。多いものを見ていきますと、忙しい、余裕がない、面倒くさい、疲れやすいといった回答者の事情によるところの理由と、場所や施設がないという環境に係る要因が、運動・スポーツを

しない、できない理由として主に挙げられております。

23ページから、この中でも主要な理由について属性別の分析をしておりますけれども、23ページですと、仕事が忙しいと回答した方の属性を見てみますと、運動不足への認識が高い方が多いということで、忙しいから運動不足も感じているということを読み取ることができます。

隣、24ページは、時間的に余裕がないと回答した方の属性ですけれども、年代ですと10代から60代で高く、特に40代で高いという結果、またその下に、その回答者のお子さんで一番年齢の低い方の状態を聞いているところがございしますが、年齢の低い子供がいる方のほうが時間的に余裕がないと回答している割合が高いことも見て取ることができます。

27ページをお願いします。こちらは場所や施設がないという理由を挙げている方の属性ですけれども、年代的には20代から50代で多くなっております。

次に、28ページの間19、今後新たに始めたい・体験したい運動・スポーツといたしましては、おおむね実施状況を聞いた問9と同様なものが回答されております。

こちらは30ページでその回答の属性別の分析を行っているんですけども、例えば、女性と男性によって回答割合の違いがあることを見て取ることができます。例えば女性ですと、体操やウォーキング、ランニング、ジョギング、ダンスなどの割合が高いなどの結果をこちらで見ることができます。

続きまして、34ページをお願いいたします。こちらは、新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツ習慣に与えた影響を聞いている設問でございしますが、まず問20、スポーツの実施やスポーツをみる、スポーツを支えていくという部分に与えた影響については、全体としては実施する意欲が低くなったという回答割合が高くなっておりますが、34ページから35ページにかけて、前のほうで聞いている健康状態の認識などの属性を掛け合わせると、今健康でないと感じている方、体力に自信がないと思っている方、運動不足を感じている方は実施する意欲が高くなったということで、逆にこれをチャンスと捉えている方が多いというところを見て取ることができます。

36ページに問21がございします。こちらは、このコロナ禍にお

いて運動・スポーツをする動機づけというものを聞いたものでございますが、情報の充実が理由・動機づけとなると回答した割合が高くなっております。

その下のところ、問22からは、現在小金井市で取り組んでいるスポーツ関連事業の取組を伺っているところでございますが、まず施設や組織の認知度について伺った問22では、総合体育館、栗山公園健康運動センターが認知度7割超、上水公園運動施設、小金井市テニスコート場で4割前後の認知度となっております。

39ページではこれらの施設の利用経験を伺っておりますが、総合体育館で約5割、栗山公園健康運動センターが3割超の回答者が利用経験ありということなどが結果として出ております。

その下に施設の今後の利用意向ということで、こちらを見ると、小金井市総合体育館は約5割ということで、利用経験からほぼ変わらない結果となっており、利用した方、また今利用していない方に、一定数、利用したくないと思っている回答者がほかの施設に比べ多いことなどを見て取ることができます。

44ページにこれらの施設を利用しやすくするためのアイデアを聞いているところがございますが、施設全体に共通して、施設の概要や利用状況、利用方法に対する情報発信といったものをアイデアとして挙げている意見が多くなっております。

少し飛ばしますが、51ページをお願いします。続きましては施設開放の取組に関する認知度、利用経験等を伺っている設問となっておりますが、施設開放の取組については、小・中学校の個人開放で約3割、その他の取組については1割程度の認知度ということで、認知度が先ほどの施設と比べては低いという結果が出ております。

54ページで、利用経験ですとか、利用の今後の意向というものを聞いておりますが、認知度が低い関係もあり、こちらの割合はかなり低い結果となっております。

60ページで利用しやすくするためのアイデアを伺っておりますが、こちらも全体共通して、ウェブ等を利用した予約方法ですとか、子供のいない方でも小・中学校の施設開放が利用できるなど、情報発信についてのアイデアが多く挙げられております。

次は62ページをお願いします。今度はスポーツ事業に対する認知度等を伺っている設問となっておりますが、施設開放の取組と同様に、体育祭や野川駅伝大会では4割弱、スポーツフェスティバル

で約2割、その他の取組で1割程度の認知度ということと、こちらを世代別に見ると、30代が一番認知度が低いというような結果が出ております。

66ページでは、参加経験、さらに今後の参加意向というところも聞いておりますが、こちらも認知度の低さもあり、回答の割合はかなり低いということになっております。

73ページにアイデアを聞いているところもございますが、こちらほかの取組と同様、情報発信ですとか、当日や個人の参加がしやすくするなどの企画、参加方法の工夫に関して、アイデアが多く挙げられております。

75ページに移っていただきまして、こちらは先ほどから多く挙げられている情報発信、考える際に役に立つであろう今の情報収集媒体などを聞いている結果というところがございます。

時間の関係もあり、恐縮ですが少し飛ばしまして、最後に83ページ、今後力を入れてもらいたいことを聞いた質問については、いつでも運動・スポーツのできる場の充実というところが全体の半数の回答を得ております。

最後、84ページ以降は自由回答形式で、小金井市のスポーツ振興に対する意見・要望というものを聞いておりまして、大きなまとまりですと、運動・スポーツの場の整備に関する意見ですとか、既存の公共運動・スポーツ施設の運用の工夫に関する意見などが挙げられているところでございます。

簡単ではございますが、郵送形式のアンケートの報告は以上とさせていただきます。

そのほか、資料3から資料5のWEB形式のアンケート結果というところも、こちらの郵送形式との比較などから、特徴を見ていただくとうれしいかなと思っております。

それでは、資料6に移りまして、改定の視点（案）についての御説明をさせていただきます。改定の視点の検討に当たっては、上に並べておりますが、現在のスポーツ推進計画策定後の取組と、その後のスポーツを取り巻く環境の変化、先ほどのアンケート調査結果の賛否を基に、改定の視点（案）というものを今回整理しております。

まず、現スポーツ推進計画策定後の主な取組といたしましては、現在の計画の4つの基本目標に対応して現状を整理してござい

て、基本目標1、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進に対しましては、子供向けにはスポーツ推進委員等による土曜スポーツクラブやニュースポーツ出前教室など、その他小金井クラブさんにおきましては、そうしたものを多世代、多志向、多種目の活動に展開、高齢者向けには体育協会さんのシニアスポーツフェスティバルの開催など、最後に障害者につきましては、パラリンピックの開催を契機に、ボッチャ教室の開催などを通じて、幅広くスポーツ活動を推進していただいているところでございます。

次に基本目標2、スポーツ・運動を通じた健康づくりというところにつきましては、ポールウォーキングイベントや健康相談等を通じて、市民の方の健康づくりの推進というものを図っております。

基本目標3、スポーツ環境の充実ににつきましては、先ほどのアンケートにも載せておりました野川駅伝大会、スポーツフェスティバルなど、様々なスポーツイベントを開催するとともに、公共スポーツ施設については改修をしたり、学校スポーツ施設の開放等、連携により、場の充実に推進してきているところでございます。

最後、基本目標4、競技力向上に向けた選手育成、指導者の資質向上というところにつきましては、市内に存在する多くのトップアスリートを生かした走り方教室などの教室やイベントを開催しているところでございます。

隣に移りまして、スポーツを取り巻く環境の変化、こちらにつきましては、前回の審議会で御紹介いたしました、今年新たに策定された国の第3期スポーツ基本計画及び都の計画という2つを基に押さえていくというところで、今回説明は割愛させていただきます。

アンケート調査については、内容は先ほど御報告したものと同じでございます、その中から、今回の改定の視点を考えるに当たって重要だと考えるものをピックアップしているところでございます。

これらを通じた改定の視点（案）といたしまして、今回事務局では3点、整理をしております。

まず1点目でございます。基本理念・基本目標の方向性を継続するというところで、今、4つの基本目標及びその上位にある基本理念といたしまして、「豊かな生涯をスポーツとともに」という柱で進めているところでございます。これらについては、現状、先ほどア

ンケートの中ではスポーツの実施率ということで、目標にする、週に1日以上運動・スポーツをしている方が、前回から向上し、63.2%、目標に間もなく届くということで、着実に進めているところもございます。

こうしたところを踏まえて引き続き継続を図っていきたいと考えておりますが、その後の国や都の動向ですとか、新たに策定された市の基本構想の将来像というものを踏まえて、この大きな方向性は継続しつつ、「市民一人ひとりの尊重」、「健康長寿」、「持続可能性」といった新たに加えた価値観ですとか、「市に関わるさまざまな主体の参加と協働」という推進手法といったところを、その方向性を進めていくためのキーワードとして重視し、検討していきたいと考えております。

2点目でございます。運動・スポーツの場・機会の充実を、官民連携・政策間連携で推進ということで、先ほどのアンケートの中でも、運動・スポーツの場ですとか、きっかけというところの充実がかなり求められているというふうに受け止めておりますが、それを実現させていくためには、市だけではなく、トップアスリートですとか、大学、企業といった官民との連携、さらに健康福祉や学校教育といった、市の中でのほかの分野との連携、さらに周辺都市との連携と、様々な観点からの連携を図ることで、さらなる充実を図っていききたいという考えでございます。

最後に情報発信を強化ということで、こうした取組、場の充実を図るだけでなく、これまでの現状の取組は認知度が低いといった課題もあるかなと思っておりますので、場・機会の充実に併せ、情報発信を強化して、設けた場や機会をしっかりと市民に届ける、伝えるというところも図っていきたいと考えております。

かなり駆け足の説明になってしまい恐縮でございますが、アンケート結果の報告及び改定の視点（案）の事務局案について、説明は以上でございます。

田中会長

ありがとうございました。

事務局の説明が終わりましたけど、何せ結果が物すごい量なのと、大事な改定の視点というところが今日のメインですが、審議をなるべくコンパクトにして進めてもらいたいと思いますので、特に改定の視点というところに関しましてメインにさせていただいて、30分

程度でまともであればいいんですけれども、そのようなことでお話を進めてまいりたいと思います。

なお、アンケートに対する細かな質問等はメール等でしていただければよろしいかと思えます。御意見等ありましたら、挙手をして、お名前を言っていただいて発言をお願いしたいと思います。

田中会長 では、田中ですけれども、膨大な回答に対する結果の集計を、ありがとうございました。今の実情がよく見えてきたような気がいたします。それに従って改定の視点というものを3つに絞っていただいて、今までやってきたものにこのような視点を加えるという認識でよろしいのでしょうか。

津田主任 現行計画の成果指標である週1回以上のスポーツ実施率は、計画最終年度65%を目標としていました。今回の調査では63.2%で目標には届きませんでした。感染症の影響を受けている中では、一定の成果を得たと認識していることから、これまでの路線は引き続き続けながら、新たな視点を加えて進めていくということです。

田中会長 ありがとうございます。
何かご意見はありますか。いきなり、かなり多くの100ページにわたる資料があつて、なかなか目を通すことも大変だったと思えますけど。

長谷川委員 何点か教えていただきたいんですが、今回このアンケート調査結果を反映した形で、改定の視点というところにつないでいただいているんだと思うんですけれども、反映する対象の調査結果というのは、もう全部WEBベースのものも含まれているということなんでしょうか。

津田主任 郵送がメインとはなりますが、もちろんWEBの16歳以上、小・中学生のアンケート結果も全部含めて考慮しながら、審議していただくものになります。

長谷川委員 分かりました。
あと2つほどなんですけど、このまとめていただいた結果って、

ざっくり言うとやっぱり小金井市としての特徴が出ているのか、他市とかほかの地域と比べてアンケート結果の傾向とか、あと定めなければいけない改定の視点とかというのは、ほかの地域と比べると特徴が出ているとか、何か小金井市ならではの課題があるかということも、ちょっとお伺いできればと思います。

ランドブレイン株式会社 まず、こちらのアンケートにつきましては、各市民の方の運動とかの実施状況などを聞いた部分と、小金井市の取組に対する認知度などを聞いた2つの柱があったかと思います。

今の小金井市の取組については比較ができないところではあるんですけども、市民の実施状況というところにつきまして、受け止めといたしましては、ほかの市と比べて、実施状況の高い、週1日以上の方が63.2%のほか、現在の継続状況として、既に1年以上継続されている方が回答者の半数であったなど、かなり実際にやられている方が回答した中では多かったなというふうには受け止めております。

それはある意味前向き、いい意味での結果は出ているかと思いますが、もう一方の現在の市の取組に対する認知度等を伺ったところにつきましては、かなり認知度が低いというところがありまして、かつ、あとは現状の実施頻度に不満だという方も半数いらっしゃいますので、まだまだ高めていく余地はある。

目標に到達していない部分もございますし、その上で、到達していない要因に、本当に場や機会が量的に不足している問題と、認知度が低いというところがございますので、実際に今行われている取組が届いていないというところは、小金井市の現状として上がってきた結果なんじゃないかなという受け止めをしております。

長谷川委員 ありがとうございます。何か自分が感じている状況とすごく一致しているので、とてもすっきりする結果だったなと思っています。

最後ちょっと細かいところの確認なんですけれども、この改定の視点で書かれている大きな大項目は、私もすごく賛同できるところであるんですけども、1つ目の基本理念のところ、理念は、この継続といったところだと思うんですが、米印の基本構想の将来像で、ここの関連性を教えていただいてもいいですか。

ランドブレイン株式会社 こちらで御紹介しているのは小金井市の基本構想ということで、このスポーツ分野にかかわらず、市政全般に関わる基本構想の将来像として掲げているものを今記載しております。

こちらはスポーツなど個別の分野の施策でございますので、もう少しそれなりに深めたものにはなるとは思いますが、大きな理念としては、その市全体の基本構想の将来像も踏まえつつ考えていくべきなんだろう。これは新しくできたものなので、これも一部踏まえながら考えていこうというところで紹介させていただいているものでございます。

長谷川委員 多分私だけ分かっていないと思うんですけど、基本構想の将来像という、もともと小金井市として立てていたものがあって、それも踏まえた上で、今回のこの基本理念がつくられているという考え方になっていますか。

津田主任 市の最上位計画の中に、この「いかそうみどり……」という基本構想の将来像がありまして、その下に、今回策定するスポーツ推進計画が位置するようになります。

長谷川委員 分かりました。すごく個人的な意見なんですけど、この「つなごう人の輪」ってすごくいいなと思うんですけど、私も小金井の仲間とスポーツをやりたいなというところなんです。

やっぱり個人的にもスポーツをやっているんですけど、どうしても外に行かざるを得ない状況で、仲間も外に行っちゃっているというところから、せっかくの小金井の中でのコミュニティーが維持できていないところが個人的にはすごく課題だと思っているので、ここの「つなごう人の輪」はすごく賛同したいですし、その中で、それに連動する形で何か、上の基本理念のところも反映されるというのかなというのはちょっと思いました。

野川委員 こちらの報告書等、御苦労さまでした。ほとんど単純集計ですね。単純集計で年齢を説明変数にしたり、あるいは居住地にしていますが、本来であれば、スポーツ推進計画ですから、小金井市の中で地域を2つとか3つの区分に分けて、地域ごとに誰がいて、どういうスポーツニーズがあるかがわかるような説明変数の再設定が必要

と思います。

それはなぜかという、改定の視点に書いてあるのは、別に運動・スポーツでなくても全部当てはまっちゃうんですね。だから健康長寿をしようとか、子供たちをもっと元気にさせようとか、あるいは高齢者で云々だとかという、目的あるいは目標として立てて、小金井市の中を例えば4区分にして、区分ごとにどんなスポーツ施設があつて、どういう資源でどんなことができ、あるいは何が足りないのか等が、このアンケートからもう一回見いだせると思うんです。

そういう意味で説明変数の再設定というのは必要と思います。特に小金井市の特徴というものが地域毎に出せるのであれば、それは出しておいたほうが良いと思います。そうしないと総花的な話になってしまう危惧があります。せっかくこれだけのいろんなデータも取って、特に小学生のデータがたくさんあるので、この辺のものを上手にブレンドされたら、よその市区町村ではないような面白いものが出てくると思います。

ランドブレイン株式会社 今回の野川委員の御意見としては、まずはアンケートの分析の仕方といたしましては、特にエリア別、今は町丁目に聞いていますけれども、もう少し特徴を分かりやすくする意味ではまとめた分析をするということで、今はかなり総花的な整理になっているところが深まるのではないかと、さらにその先に、子供なり高齢者をターゲットといったところの具体化が図られるのではないかと御指摘だったかと受け止めました。

これについてはぜひ深めて、もう少し先といたしますか、施策までも見据えたところになってくると思いますけれども、次回以降、深めた分析も加えて御審議いただければと思います。ありがとうございます。

もう一点補足をさせていただきますと、市内のエリア区分というものはかなり難しいところがあるのかなと思っております、私も幾つか町をまとめたエリアを考えてみたんですけど、この小金井市って、どうまとめると皆さんの暮らし方の圏域としてイメージしやすいのかなというところは、幾つかほかの計画でも地域を3つぐらいに設定したりとかというのを見ているんですけど、幾つかあつて、区分の仕方、なじみがあるとか、実感に近いというも

のがあれば、伺えるとありがたいかなとも思っております。

野川委員 その区分のほうは、小金井市が出すべきであって、我々が勝手にこことこでこうしようよということを決めてはいけないと思います。これは当然小金井市のほうできちっとした案を出されたほうがいいと思います。そうしないと、具体的に市の計画が多分できないと思うんです。

中島課長 野川委員の御指摘につきましては、我々のほうで検討させていただいて、お示しさせていただきたいと思います。

野川委員 よろしくをお願いします。

田中会長 すごいデータがいっぱいあるので、その扱い方をどうするかというのはすごく大切だとは思いますが、これだけの資料をずっとやって、もう一つ違う何かができそうならいろいろなデータが入っていると思うんです。

それで先ほどちょっと地域という話が出た。それは、例えば体育館を使っている地域別のパーセンテージみたいのがありましたよね。要するに簡単に言えば、坂下の人は崖の上には来ない。昔で言えば、中央線を挟んで北と南で分断されていると。それが多分今もまだちょっとあると思うんです。しかも小金井体育館は、向こうの端と言ったら怒られちゃうけど、あるわけですよ。で、よく言うんですけど、坂下のほうには何もないんですよ。何もないと言って、また坂下の人に怒られちゃう。

そういうことはある程度出てきていて、そういうところの視点も含めてやってもらえれば皆さんも納得できるんだけど、じゃ、その施策としてどうしたらいいのかというのは、意見がいっぱい出ていますよね。ここにバスを走らせろとか、いろんながあると思うんですけど、そういうものも上手に入れてもらえばいいかなと思います。結果、やっぱり施設の不足というのが一番出てきますよね。

それから2つ目は、やっぱり情報がちゃんと市民に伝わっていない。その中の一つとして、体育協会であるとか、黄金井倶楽部が存在しているんだけど、それを知っている人は1割とか。運動している人がほぼ回答していると思うんですけど、そういう人たちでさえ

1割ぐらいしか知らないことになっているので、やっぱりどういふふうに上手に情報を発信しながらするかというのと、30代、40代、50代の働き盛りが運動不足で、時間がなくて、忙しくて、できないんですよ。既存のスポーツではちょっとできないから、このアンケートで見ると、家族とちょっとしたことをやりたいんだけど、そういうイベントはありますかというのが。

何かそうすると3つぐらいの視点があると思うんですよね。やっぱりそれを上手に説明していただいてやっていただけると、非常によろしいんじゃないかなと感じました。コメントです。

中島課長 田中会長、ありがとうございます。今の御意見を参考にしまして、今後の計画も、原案のほうは策定してまいりたいと思います。

田中会長 ほか何かございませんか。
檀原先生、何か学校教育のほうから御意見ありませんか。

檀原委員 資料のほうありがとうございます。本当にこれだけ緻密に丁寧に作成してくださって、興味深いなと思って。ただ短時間だと全部把握することができないので、把握できない中で、今目に止まったところを見ていて、確かにそうだなと思ったところは、やはりすごくスポーツとか運動する受皿としては、これだけのものが小金井にもあって。

ただびっくりしたのはやっぱり知らなかったというものがありましたよね。特に身近なそういう地域で行っている学校の施設開放などは、結構このアンケートに答えている方は、運動とかスポーツに非常に興味がある方が多い中でのアンケート結果にもかかわらず、知らなかったというのが多数を占めている項目がたくさんある。

そうすると、この基本方針にも出ている、3つ目の情報発信の強化。情報発信だったり、市のいわゆる市役所関係のホームページの中でもウェブデザインなんかを工夫して、ここに入るとニーズに応じた、小金井市で運動・スポーツができるところがすぐに分かるとか。

今24時間のフィットネスがどんどん増えていますよね。やっぱりお金はかかりますけど、どこでもいつでも行けば、自分の好きな時間に、好みの運動、体力づくりができるというところでどんどん

増えているんでしょうけれども、当然24時間なんていうことはできるわけじゃないんですが、何かニーズに応じたものを選んだり、わくわく感が出るようなウェブページができると、今の既存のものもどんどん生かすことができるのかななんて思いました。

あと、施設がかなり汚いというのがありましたよね。プールなどにしても。体育館も多くの体育館はラインがほとんど消えているんです。何とかしてほしいんですけれども。ラインが消えているともうスポーツを行うのも難しい状況です。バドミントンのラインにしてもバスケットのラインにしても、もうすべすべで消えちゃっているんですよ。

学校で言ってもなかなかそういうのは予算化されなくて、こういった社会体育的なところからも、バドミントンにしろ、卓球は台ですけれども、ミニバスのラインとかコート、バレーボールのラインにしても、そういったものを整えることによって、もっとスポーツをやりたい意欲も高まるのかなと。そんな情報発信というところをぜひ大事にしていっていただきたいなと。

田中会長 貴重な御意見だと思います。ラインがない、ラインが消えかかっているって、ちょっと大変ですね。

檀原委員 ぜひ1回見てもらえるといいんですが。そこにテープを貼っちゃうので。テープを貼るとまたそれが擦れて、切れて、下ののりが残って汚れていくという悪循環になるんです。何かきれいな映像が出て宣伝したら、施設開放にもっと行きたくなることもあると思います。

田中会長 何かそのほか。どうぞ。

本橋委員 資料をいっぱい見せていただきましてありがとうございます。これは割と何人かの人で参加するスポーツを前提にしているというのがあるんですけれども、できれば1人で参加することができる、そういう場所のきっかけをつくっていただけるとよいと思います。テニスをやっているものですから、個人的にいらっしゃる方が結構多いんですけど、やっぱりなかなかホームページを見ても分からないし、市に言っても分からないし、体育協会に言っても分からない

ので、どこに言ったらいいんだらうというのは、個人的に連絡を取るのには周りから。だから個人でも入れるサークルはいっぱいあるので、そういう情報も流していただけるといいのかなと思いました。

それでさっきの体育館のラインというのは、学校側で引くんじゃないのでしょうか。

檀原委員 体育館を作ったときに引いてあるラインがあるんですが、その表面のワックスも多分もう剥がれてしまっていて、どんどん擦れていったために、もう消えかけているラインがいっぱいあるんです。

本橋委員 私も一中講堂の体育館をより使うんですけど、ラインが本当になくて、パドルテニスをするんですが、変に引くと怒られちゃうので。

檀原委員 そうですね。

本橋委員 でもけがしているし。けがしない人たちでも、スポーツは一応切っただけでやりたいので、なかなかこれってどこで引くんだったらかなと思ってたんですけど。違うんですね。

檀原委員 分からないな。

本橋委員 すみません、ちょっと気になったものですから。

野川委員 野川ですけどよろしいですか。

田中会長 どうぞ。

野川委員 こちらの資料2の11ページと12ページですけれども、市内の施設と、それから市外で分けてみたらいかがでしょうか。市内の施設は誰がどのぐらい使っているのかということが分かったほうがいいと思うので、その辺はきちんと分けたほうが良いと思うんですよ。

これは社会教育の範疇になるのかもしれませんが、今の学校、あるいは公共施設のメンテナンスがどの程度きちんと行われるかというのは、個別に調べたほうがいいかもしれませんね。安全性の確

保という面で、学校体育施設も、それから公共施設も、築35年以上たっているのが大体7割というふうに言われていますので、この辺のところをちゃんと調べておきながら計画を練ることも必要と思います。

長谷川委員 野川さんの話もちよっとお伺いして、さっき他市との比較というお話を聞いたんですけど、今日って改定の視点がある程度この議論で方向性が固まる感じなんですか。

津田主任 はい。

長谷川委員 そうすると、先ほどおっしゃった小金井市の特徴というところはすごく賛同するところで、やっぱりこの運動施設の充実とか情報発信の強化と言われると、確かにそうだよねという話で、今は小金井市の課題に対して足りないところを補うための目標にしかなくて、確かにおっしゃられるとおおり、そこに小金井市だからこそできることみたいなのが特徴として加わると、少し面白い取組として、何かモチベーションもある中でできるのかなというのはちょっと感じました。

個人的にはやっぱり大学もいっぱいあるので、大学との連携なんかはすごく、小金井市だからできることなのかなと思いましたし、あと、コミュニティーがすごく小金井はあるので、その辺もうまく活用してというところ。

あと、もう一つちょっと、これはすごく大きなチャレンジになると思うんですけども、このスポーツを取り巻く環境の変化にもあるスポーツ界におけるDXの推進です。ここはちょっと私も仕事柄進められるといいなと思うところで、今ってデータの分析の仕方といったところもコメントがありましたけれども、やっぱりどうやってデータを集めるか、そのデータをどういうふうに多角的に分析するかみたいなのもすごく重要になってくると思うんです。

今いただいたこのアンケート結果の視点で、確かにこういうふうに見ているんですけども、ちょっと違う角度から見てみたいなという気持ちもあって、そのためにはやっぱり集め方から変えていけないとできないところがあるので、そこでDX推進とうまくつなげていただいて、データの収集の取り方のところも、ウェブから情報

発信ももちろんやっていくんですけども、市民からどうやって声を集めていくかとかデータを集めていくかというところもデジタル化できると、何かやれることが広がるのかなと思いました。

田中会長 今細かい施策のことについてもちょっと話がありましたけど、今回は大きな枠組みの中でやって、落とし込みを今後どうしていくかという理解でよろしいんですよね。ですから大学との連携であるとかいろんな。学校もそうですけど。

前もちょっと打合せのときに話したんですけども、小・中は小金井市の手の内にありますよねという話。でも高・大は違う施設なので、施設の管理が違うので、大学と何かするといったら、それはハードルが高いですよ。やっぱりそのハードルを越えるには、市長であるとか、学長であるとか、そういうところと、一応一緒にやりましょうみたいなところがあって、それが下に落ちてくる。でも小・中は小金井市立ですから、その施設を使うとか、そういうことは可能じゃないかという話はしたんです。

ただ、そうは言ってもやっぱり小・中は小・中の壁があってなかなか大変だけど、両方から攻めていかなくては。両方というのは、小・中もやりながら高・大もやりながらみたいにして、やっぱり少ない施設を有効活用するという方法が、小金井市の施設拡大の一つの方法じゃないかなというふうには思っているんですけど、そういうものは大型の施設によってやっていったらいいかなと思います。

あと、申し訳ないんですが、スポーツ界におけるDXの推進。DXというのは何ですか。

長谷川委員 デジタルトランスフォーメーション。

田中会長 DXと言われてもほとんどの人が分からないから。要するに、デジタル化したものを何かするということですね、今ふうに。分かりました。

長谷川委員 いや、もう本当にこれだけの厚い紙を減らす。タブレットでできるところも。

田中会長 自分のパソコンを持ってこようかと思いましたけど。

長谷川委員

すごくこれは大変だっただろうなと思いますし、あと、録画を取られて議事録を丁寧にめくっていただくというところも、あれはもう市のやり方としてしようがないのかもしれないんですけども、ちょっとデジタルをやっている人間からすると、もう少し何とかならないのかなと思うところとか、その辺も何かお手伝いできればと思います。

あと、大学のお話があったんですけども、私個人的には、もちろん小金井市が大学の設備を使わせてもらうという考え方もあるんですが、どっちかというソフトの部分で、大学生の手を借りるみたいな連携ができるのも、小金井市だとできないかなというところで、それこそこのDXだったり、ウェブ化して情報発信のところとかって、学生さんで学ばれていて、その辺のリソースを借りて、地域貢献のところに学生の力を借りるみたいなところも、小金井市だからできることかなと思ったところは。

それをどういうふうにお願ひできてとかというところは全然アイデアはないんですけども、ジャストアイデアとか。借りるだけじゃなくて、何かウィン・ウィンで、学生が小金井市のために貢献できる場をこちら側からも提供してみたらとかというの、一つの進め方かなと思いました。

田中会長

それはいいですよ。

情報工学科もありますし。いろんな学生さんがいるから、そういうのをやってみたいとか、あるいはまちの中を、グーグルマップじゃないですけど撮って、それをどこかウェブに載せたいとか。卒論研究でもいいと思うんですけど、それをそこに置くとかいうのも可能だと思うんです。今までそういう接点もあの中でないですかね。そういう発想も必要かなと思います。確かにハードだけじゃなくて、そういうソフト面でつながりができるとよろしいかと。

長谷川委員

若い学生さんのほうはリアルでやって、情報発信の仕方、じゃ、T i k T o k を使おうかみたいな話に多分なったりとかすると思うんですけども。その辺は我々の年代よりもアイデアをもらえたほうが、何か面白さが出せるのかなと。

田中会長

そのほか何かございますでしょうか。

中川委員

会合では1つは必ず発言したいなと心がけたいと思っているんですが、今日のデータの中で、自分自身体育協会にいて、今オリンピックが終わって、今度はサッカーで、あと4か月だと言っている割には、何、こんなに認知されていないというのは。体育協会がスポーツ協会になるとかいうのはもう何年もやっているんですけど、小金井市に体育協会があるのを御存じの方はこれだけなのというのは、本当にちょっとつらいなと。

考えてみれば、市民の数からいったら、体育協会の加盟団体に所属している方が通常1万人弱で、1万人を超えて、早く半分の土台にしようよというふうに行っている割には、現実的に資金源の問題だ何だといったときに、加盟団体、加盟メンバーが少なくなっているのが現状だったので。

いろいろ先ほど来皆さんの御意見で、いろいろ施策としては、市が提示するべきとかいうことですが、自分の現実的には、ちょっと横道にそれますが、おととい初めて、59歳以上ですと、また違ったスタイルでのソフトボールということでは、自分も60を超えてからチャレンジしていて、結論としては、初めて優勝して、9月17、18で茨城県の常陸太田市のほうで出ていくわけですが、これを絶対PRするぞといったときに、何だよ、知らないのねなんて言って、じいちゃんの空喜びになっちゃうの。

だけど、自分自身は小学生のチームも育て、中学生を高校生をとということをやって、みんな頑張れと言っている割にはじいちゃんも頑張ってるんだぞというのを見せるところでは、過去何回か全国大会に行って、自慢話はするけど、実際現地に行くと、このプレーはちょっと家族には、じいちゃん頑張ってきたぞと言った割には見せられないなというのもあるんですけど。

そういう意味で、自分は先ほど来御意見の中で、いろいろな競技も見せる。どこに行ったらいいのというより、やっぱりいろんな施設があるとなると、どの競技はいつどこで行っているというこの定期開催。その競技はここでやっているよというと、何か見たいときにすぐ行けるとか、取上げであったけれど、やってみたいといったときに、今ですといろんな施設でもインターネットで借りるのはあれですから、違う競技になっちゃっているということになると半減

してしまうということで、施設の中で活用度合いをどうするとか、先ほど来言っている固定化した形で活動できるという要望があれば、少しずつPR。

以前は例えばグラウンドでも、総合体育館に月初めに集まって、いろいろ利用したい方たちで相談しながら、じゃ、土曜日のここはこうしようとか、何か言うと、大体固定化していますから、何かあったときにPRするときは、土曜日の1時～3時はここで必ずやっていますよというふうになると、違ってくる。

そういう意味では、小学生の野球だとかサッカーは、各9校のうち8校が決まっているような感じで割り振りされているんだと思うんですけど、そういう形で、いつやってみたいとお兄ちゃんがやっていれば、妹、弟がやってみたいとかいうところでいける。そういう何かシステムの的に継続できるというところを自分は、携わってからずっと思っているところなんです。

残り僅かな人生、もうちょっと頑張ってみようかなというところでは、そういうところで活動、または御意見を述べさせていただけたらと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

田中会長

そのほか何かありますか。

先ほど議論を短めにと言いましたけど、よろしいでしょうか。

今までの意見を踏まえた上で、この改定の視点というところは、私は変わらないと思うんですけども、この辺を上手にまとめていただいて、次回に提案していただければと思います。

檀原委員

1点だけ最後に。

田中会長

はい。どうぞ。

檀原委員

先ほどもちょっと触れたんですけども、いろいろアンケート結果の自由記述の中にもあるのは、やっぱりきれいな施設とか、そういったことがいっぱいあると思うんです。使いやすいきれいな施設。

使う方が、例えば場合によってはシャワーを浴びて帰れそうなものがあつたりとか、数は少なくとも衛生的にそれができるものがあるということも大事かなと思いますし、そもそもさっきも言ったラインがないとか、汚れているとかということも、今ある既存の施

設を、それほどお金をかけなくても改善することで、人が来たくなるということも出ていると思うので、そういったところを、意見もたくさんありましたけれども、ウェブページなどでも宣伝して、こんなところでスポーツができますよということを紹介するだけでも、かなり改善されるのかなと思いましたが、この基本政策の中に、既存の施設の改修とか、リニューアルですか、リフォームじゃないですけど、限られた予算の中でもそれはできるといいなと思いました。

梅原部長 ありがとうございます。

長谷川委員 ごめんなさい、私も最後にちょっと1つだけ。今日来られていないんですけど、佐藤さんと個人的に終わりしなに、学生なのにこういうところに参加されて熱心ですねみたいな話をしたときに、佐藤さんの思いとしては、障害者向けのスポーツのところを、何か自分ができることがあれば協力したいということをおっしゃっていたんです。

今回そこが含まれていないところが少し残念だったと思うのと、せっかく学生さんなのにそういうところで頑張ってもらっているので、ちょっと代弁じゃないですけども、そういった方の力も借りつつ、何かそういう障害者向けのところなんかも取組として実施できるといいのかなと思いました。

梅原部長 今たくさん御意見いただきましたので、計画への反映というところについて検討させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

津田主任 今の長谷川委員からいただきました、障害者向けスポーツというところなんですけれども、資料6の改定の視点（案）の基本理念・基本目標の方向性の3行目の「市民一人ひとりの尊重」というところで、障害者の方についてフォローしているという認識でおります。

長谷川委員 はい。分かりました。

田中会長 よろしいでしょうか。ではよろしくお願ひします。

それでは続きまして、次はその他になりますけれども、事務局のほうから、その他何かありましたらお願いいたします。

田中会長

どうぞ。

中島課長

では私から、運動部活動の地域移行について御説明をさせていただきたいと思っております。資料7を御覧ください。

こちらについては、もう御存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、改めて御説明させていただきます。こちらは令和4年6月6日に、スポーツ庁が所管します運動部活動の地域移行に関する検討会議から提言された概要になります。

まず運動部活動の課題ですが、近年少子化の進行により中学生の減少が加速化するなど、持続可能性という面で、その厳しさが増しているというふうに言われております。第2次ベビーブーム世代が中学生であった昭和61年が約589万人と最多で、令和3年には約296万人と、おおむね半減しております。出生数で申し上げますと、令和3年では約84万人となっております。

このような社会情勢の変化を踏まえますと、部員が集まらないことにより、大会への出場ができない、また日頃の練習すらままならない状況になったり、生徒数や教員数の関係から、部活動を維持するだけでも精いっぱいであったり、廃部になることも想定されます。

そうした状況は、生徒の多様な志向や体力等に合った活動が難しくなることにつながりまして、運動部活動の教育的意義であります生徒のスポーツに親しむ機会の確保や、自主的・主体的な参加による活動を通じての責任感・連帯感の涵養、自主性の育成等が失われることとなります。

真ん中、そこで目指す姿としましては、国の第3期スポーツ基本計画に、スポーツは、様々な形での自発的な参画を通して、楽しさや喜びを感じることに本質を持つ文化であり、全ての人が自発的にスポーツに取り組んで自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会をつくることを目指すべきとされております。その際、運動部活動の教育的意義についても、地域単位の活動において、継承・発展させていくことが求められております。

その下、運動部活動の改革の方向性についてですが、まずは休日

の運動部活動から段階的に地域移行していくことを基本として、改革集中期間としまして、令和5年度から令和7年度までをめどに進めることとしております。その後、平日の運動部活動の地域移行につきましては、できるところから取り組むことが考えられ、休日の地域移行の進捗状況等を検証しながら進めることとなります。

運動部活動の課題は、最後のところに書いておりますけれども、種々ございます。こちらに関して関係部署や学校と連携し、中学校の運動部活動を取り巻く現状と、資料に記載のある課題等を整理しつつ、地域における新たなスポーツ環境の在り方や、その構築方法などを検討する必要があると考えておりますので、今後も関係団体等と密に話を進めてまいりたいと思っております。

当審議会におかれましては、今後も適宜報告をさせていただきますので、全体を俯瞰していただき、御意見を頂戴できればと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

説明は以上になります。

田中会長

ありがとうございました。何か御質問等ありましたらお願いします。

テレビなんかでも最近この問題が出ていまして、要するに、先生方も土日、祝日のクラブ活動をやるのも大変だし、それを民間に移行するというか、誰かにお願いする格好になるということですよ。

その予算とか人的なソースというのはどのように考えているのでしょうか。言葉では理解できるんですけど、いろんなクラブがあって、いろんな人が。そう簡単に学校のクラブ活動に入れるのかなという気がするんです。分かる範囲というか、例えば小金井市はこんなことを考えているというのがありましたら、ちょっと教えていただければと思うんですけど。

中島課長

今、部活は教員の方以外にも、部活動指導員や外部指導員という方を雇ったりお願いしたりしまして、そういった状態で教員の働きをフォローしている部分がございます。そちらに関しましては、今既にそういった方々に一部をお願いしているところなんですけれども、今後充実を図っていきながらというのも一つの案としては考えておりますし、財政の話になりますと、先行してこういった地域移行を進めている自治体においても、やはり財政に関してはちよっ

と課題があるというふうに聞いております。

そこに関しましては、こういった提言を踏まえ、また今年度、こちらのスポーツ推進計画を新たにつくっていただくための個別の施策としても、こちらも念頭に置いてご審議いただければなというふうに思っております。どうぞよろしく申し上げます。

田中会長 1つだけ気になっているのは、教育現場に外部の指導員が来るということに対して、その指導員の質というか、それはどのようにして保証するのかなというのが一番心配しているところです。ただ上手だから、やっていたから、それで入っちゃうと、いろんな障害というか、生徒との圧力であるとかそういうのが、教育の場だからちょっと気になるんですよね。実際に今やられているとしたら、どういうふうにしてその方を依頼しているんですか。

梅原部長 この地域への部活の移行、これは先進市といいますか、今先行して進めているところの例なんかを見ますと、やはり一定の指導される方の質といいますか、そこも考えなければいけないということで、資格のような形をつくって、認定した上でやっているというようなところもございますので、まだ本市としては何も決まっておられませんので、その辺もよく研究しながら進めてまいりたいというふうに思っております。

田中会長 分かりました。

長谷川委員 長谷川ですけど、この部活動の地域移行は、どこがドライブするとか、ここで決めるんですか。結構これは優先度が高い話ですよ。期日的とか、もう差し迫った話で、今おっしゃられたような課題もやっぱりいろいろ考えると出てきますし、その中で、今このスポーツ推進のテーマとか計画を進めるスケジュールというのは、令和5年に向けて、令和4年の最終月に決まるような計画で進んでいると思うんですけども、ここには融合させないんですか。

中島課長 計画の中の個別の施策としてはやっていっていただきたいというふうには考えております。令和5年度から段階的に、まず休日からということで始めますので、そういった流れは計画の中に同じよう

に入れていただけるとありがたいというふうには考えております。

検討する主体ですけれども、まずは我々と、またやはり学校の状況もごございますので、学校を管轄しております学校教育部とも連携しまして、課題を整理して、前に進めておきたいと思っております。それについて前に進めるに当たりましては、やはりいろんな関係団体や、もちろんこちらの審議会の皆さんにも報告をしながら進めていきたいというふうに考えております。

梅原部長 令和5年度に向けてこちらでも検討を始めたところになりますので、このスポーツ推進計画にどれぐらいの記述で載せられるかということについてもちょっと検討しながら、案として見ていただきたいと思いますので、そのところでまた御意見いただければというふうに思います。

長谷川委員 ありがとうございます。課題は大きいと思うんですけど、逆にチャンスな部分というのもあると思うんです。スポーツ推進の計画を進める中で、さっき個人的に言った大学生の連携みたいなのも、一つのソリューションになるのかもしれないしみたいなのところなので、融合できる話というのはたくさんあるんじゃないかなと思ったときに、この計画案もどこかで見直しを一部かけてもいいのかもしれないですし、うまくこの部活の地域移行のところと絡められる話なんかもあるかなと思ったので、そこは何かぜひ前向きに取り組めればいいなと思いました。

田中会長 よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それではその他なんですけれども、木藤委員が小金井市からほかのところへお引っ越しされるということで、この審議会を退任されることを御連絡いただきました。木藤委員のほうから一言御挨拶を。

木藤委員 すみません。7月19日に主人の辞令が出まして、地元の愛媛県のほうに急に引っ越すことになりました。子供も生まれてからほとんどこちらで過ごしているのですごく残念がっているんです。それもあってちょっとこちらの委員も引き受けて、もっとよくなっていけばいいかなと思ったんですけれども、任期の最後まで一緒に活動

することができなくて申し訳ないんですが、これからもっとよくなって、特に子供が活動しやすくなるように。

今日集めていただいたアンケートでも、やっぱり子供が遊んでいて怒られるというのが結構あるので。グラウンドで遊んでいてもうるさいと苦情が入ったりだとかいろいろ。私は子供からとか、子供を持たれている世代からの意見を結構聞くことが多いので、その辺りをやっぱり解消して、もっと子供たちが。多分今小さい子供たちがどんどんこれからスポーツを盛んに行っていくと思うので、引っ張っていくと思うので、その辺りが大分改善されるとうれしいなと思っています。

短い間でしたけれどもありがとうございました。

田中会長

お子様を育てている視点から御意見いただきましてありがとうございました。

それではそのほか、他の委員から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日の議事は全て終了いたしましたので、これをもちまして、第2回のスポーツ推進審議会を終了したいと思います。

本日はどうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

—— 了 ——